

25 バーミキュライト含有泥質ホルンフェルス

写真



半田山の崩壊箇所 基盤岩が泥質ホルンフェルスでD級風化部分にバーミキュライトを多く含有していた。

解説

花崗岩の熱変成により形成された泥質ホルンフェルスが岡山大学の裏山の半田山に分布する。このホルンフェルスは硬質だがクラッキーで、一部にスメクタイトを含有し破碎しやすい。また、ホルンフェルス形成直後の熱水変質で黒雲母が緑泥石に変質し、風化過程で更にバーミキュライトに変化していることが判明している。バーミキュライトはスメクタイトと同じように膨潤性に富み、D級風化岩では表層崩壊の素因となり、崖錐層が形成され、その崖錐層が平成30年7月の豪雨で緩斜面にもかかわらず崩壊した。その崖錐層にはバーミキュライトやセリサイトなど層状粘土鉱物が多く含有していた。

花崗岩に近接するホルンフェルスでは、同様に風化によるバーミキュライト化が進行している可能性があり、斜面安定性に注意が必要である。



半田山、山裾の露頭

泥質ホルンフェルスで硬質で多亀裂